世界の雄ユーゴが来日

4/21からジャパンカップ'84および国際親善試合

ハンドボールシーズンの開幕を飾るジャパンカップ84および国際親善試合が4月21日から大阪、名古屋、東京を中心に行なわれる。(日程は本号26頁に掲載)

輝かしい戦績を誇るユーゴ

参加国は、男子は日本ナショナルチーム、ユーゴスラビアナショナルチーム、バストラ・フレルンダ（スウェーデンのトップチーム）の三チーム、女子は日本ナショナルチームとアメリカ合衆国ナショナルチームである。

ユーゴは、72年のミュンヘンオリンピックで優勝、前回の世界選手権（西ドイツ）で2位になったのをはじめ、公式戦で常に上位を占め、その他24の国際大会で優勝している世界の強豪である。女子も男子に劣らない戦績を残しているが、これも、ユーゴではサッカーと同じようにハンドボールが非常に盛んで、16才以上のユーゴスラビアカップには一三、八六一チームが参加する（ユーゴの全人口は約二、一七二万人）ことからも分るように、選手の層が非常に厚いことによる。オリンピックで入賞できるチームをいくつか編成できるようなハンドボール王国なのである。世界選抜チームも過去九名が選ばれ、今回来日するP・ユリナー（No.8、キャプテン、左投）もその一人である。他に高い得点数を誇るのはM・イサコビッチ（No.15）、V・ブィエビッチ（No.9）、J・エレゾビッチなどがいる。

一方バストラ・フレルンダチームはスウェーデンのリーグ2位のクラブチーム。FPの平均年令が日本・ユーゴの各27才に比べると平均23才と若いが、FPの体格は、身長184cm、体重77kgでほぼ日本ナショナル選手と同じくらい。ユーゴの平均身長190cmには及ばない。

迎え撃つ日本ナショナルチームは、昨年のロスオリンピックアジア予選の戦士16名。二月から三月にかけてのユーゴ、西ドイツ遠征で、対ヨーロッパのディフェンスをみっちり研究して来た。その成果をこのジャパンカップでどのように引き出すか、それに若手の高村、田口の成長ぶりが見ものである。

USA女子が初見参

女子の部は日本とアメリカだけであるが、ハンドボールでは新しい国アメリカが初めて来日する。開催国としてロスオリンピックに出場するチームであるが、平均年令が26才と意外に高い。昨年のオリンピックアジア予選後若返った日本ナショナルチームの平均年令20・5才、平均身長165cmに比べると平均身長が7cm高い。未知数の部分が多いだけに、日本との対戦が興味深い。

バストラ　フレルンダチーム

団　長　ライン　スベンソン
監　督　アーノルド　ザッカリアソン
コーチ　トーマス　ヨハンソン

	選手	年令	身長	体重
GK	1グンナン グスタフソン	(23)	186cm	81kg
	12ニクラス ランゲルストリョーム	(20)	180	73
	2ペル ウベルグ	(21)	192	93
FP	3マッツ エリクソン	(19)	180	82
	4クリスター マグヌッソン	(27)	190	85
	5ラルス タニエルソン	(23)	176	81
	6ライン スベンソン	(28)	183	83
	7トーマス オルーソン	(19)	185	80
	8ミカエル スベンソン	(19)	186	81
	9レンナルト ファールグレン	(21)	189	76
	10ラルス アーレルト	(21)	195	95
	11イングバル ブロールソン	(21)	175	80
	13ラルス イエプソン	(29)	184	82
	14デニス ゲルケ	(23)	188	87
	15ペター エルベルグ	(19)	174	74
	17アンデルス リュグヴィスト	(21)	183	72
	18ラルス ハルトグレン	(29)	181	82
	19クテエス アケ ブラットベルグ	(27)	182	85
	4クリスター マグヌッソン	(27)	190	85

日本男子ナショナルチーム

監　督　市原　則之（湧永製薬）
コーチ　野田　清（大同特殊鋼）
コーチ　一宮昌平（日体大）

	選手	年令	身長	体重	所属
GK	1大畑孝広	(27)	184cm	78kg	（本田技研）
	12井藤英忠	(25)	185	80	（湧永製薬）
	16上村幸彦	(25)	178	75	（大同特殊鋼）
FP	2山本伸二	(30)	176	71	（湧永製薬）
	3蒲生晴明	(30)	192	90	（大同特殊鋼）
	4中本満明	(30)	184	82	（大同特殊鋼）
	5関　健三	(29)	180	78	（三陽商会）
	6生駒靖夫	(28)	185	84	（湧永製薬）
	7池ノ上孝司	(28)	185	78	（湧永製薬）
	8洞ガ瀬直幸	(28)	182	77	（日新製鋼）
	9佐々木信男	(28)	178	74	（本田技研）
	10志賀良弘	(28)	188	90	（湧永製薬）
	11松井幸嗣	(26)	178	75	（千葉教員）
	13西山　清	(25)	181	77	（日新製鋼）
	14高村誠一	(23)	188	80	（大同特殊鋼）
	15田口勝利	(22)	187	80	（大同特殊鋼）

ユーゴナショナルチーム

会　長　ストヤノフスキー
団　長　ブレリヤ
理事長　イワン・スノイ
監　督　ポプラヤク
コーチ　ジェイコビッチ
ドクター　ヨストビッチ
総務・アディダス　グラブナーラ

	選手	年令	身長
GK	12M・バシッチ	(23)	188cm
	1Z・アラノトビッチ		
	16R・プシニック		
FP	2M・ルーニッチ	(29)	190
	3V・ブコビッチ		
	4M・カリーナ		
	5J・エレゾビッチ	(28)	193
	6Z・ゾフコ	(28)	182
	7B・ストーバッツ	(26)	187
	8P・ユリナ	(29)	193
	9V・ブヨビッチ	(23)	197
	11S・グズマノフスキー		
	13D・ラジェノビッチ	(31)	194
	15M・イサコビッチ	(26)	185

ゴールデンウィークには
国際スポーツフェア84春

昨年から日体協およびフジテレビ、サンケイ新聞社、ニッポン放送の主催で行なわれている国際スポーツフェアに今回はハンドボールが参加するが、ハンドボールは5月2日、3日に国立代々木競技場で男子の日本×ユーゴ、女子のアメリカ×関東学生選抜を中心にチビッ子ハンドボール、ナショナル選手によるハンドボール教室や「夢のハンドボール」など多彩なイベントが組み込まれている。

会場では他の種目や子供達のための楽しい催しも行なわれるので親子連れで見ても面白そうだ。

日本女子ナショナルチーム

監　督　井　薫
コーチ　樫塚正一

	選手	年令	身長	体重	所属
GK	1井村文光子	(24)	170cm	63kg	（立石電機）
	12畑添真由美	(22)	170	64	（ブラザー工業）
	16山口妙美	(18)	168	65	（ジャスコ）
FP	2武藤夕起子	(20)	168	66	（日本ビクター）
	3岩村英子	(22)	173	63	（立石電機）
	4寺沢路子	(21)	167	60	（ジャスコ）
	5近藤ひろ子	(22)	155	58	（立石電機）
	6増永真奈美	(23)	158	59	（ブラザー工業）
	7若水真由美	(20)	156	49	（大和銀行）
	8前田重子	(22)	161	58	（日立栃木）
	9時実良枝	(20)	168	65	（大崎電気）
	10沖山千恵子	(19)	167	61	（大崎電気）
	11山岸和子	(20	173	64	（日立栃木）
	13山内香代	(19)	170	62	（立石電機）
	14下条千恵子	(20)	169	62	（日本ビクター）
	15野嶋ちえみ	(20)	166	57	（立石電機）
	17市川千恵	(19)	168	67	（東京重機）

アメリカナショナルチーム

団　長　レネイト　ベーニング
監　督　クレメント　カプリア
コーチ　イリア　ミルマン
総　務　ドロシー　フランコ
ドクター　ケヴィン　ムーディ

	選手	年令	身長	体重
GK	1パム ボイド	(28)	167cm	72kg
	12ペニー ストーン	(20)	172	70
	16キム ハワード	(24)	179	72
FP	2キャロル リンゼイ	(29)	171	65
	3レイタ クラントン	(31)	179	63
	4シェリー ウィン	(22)	164	61
	5テス コントス	(24)	169	75
	6カルメン フォーレスト	(29)	177	72
	7サンドラ リヴァ	(22)	169	67
	8ジャン トロンブレイ	(27)	182	70
	9マリー フィル ドワイド	(32)	169	67
	10シンディ スティンガー	(25)	172	66
	11メリンダ ヘイル	(29)	172	66
	13サム ジョーンズ	(23)	172	68
	14ディー ミラー	(26)	167	65
	15アリ コフェイ	(19)	177	69

関東・関西学生選抜ヨーロッパ遠征

長身選手相手に大きな収穫
女子は両チームとも全勝

関東学生

●男子●

◇第1戦〈2月27日・月〉
関東学生 24（11―11 13―15）24 アウンスクリフテル
〈得点〉金原3 水之江5 田中4 朝生6 中沢2 武田4

◇第2戦〈2月28日・火〉
関東学生 26（14―7 12―14）21 ムッターシュタット
〈得点〉菅田2 水之江1 境1 田中3 朝生2 牧井3 武田8 高岡3

◇第3戦〈2月29日・水〉
関東学生 20（7―9 13―11）20 ニーダーエッシュバッハ
〈得点〉金原1 菅田1 水之江7 内間2 朝生1 近嵐1 中沢1

◇第4戦〈3月1日・木〉
関東学生 21（13―8 8―13）21 ミュワーフェールデン
〈得点〉山口2 東福2 泉1 渡辺1 境5 近嵐1 新井2 武田3 重岡4

◇第5戦〈3月3日・土〉
関東学生 18（9―8 9―11）19 ゾウルベルグ
〈得点〉金原5 菅田2 東福1 渡辺1 境4 新井4 武田1

◇第6戦〈3月4日・日〉
関東学生 26（10―14 16―11）25 南西ドイツ
〈得点〉金原8 菅田3 水之江1 朝生4 新井3 武田6 重岡1

●女子●

◇第1戦〈2月27日・月〉
関東学生 20（8―5 12―5）10 タウンスクリステル
〈得点〉佐藤3 浅沼3 若松1 李3 田中1 大野3 上嶋3 北井3

◇第2戦〈2月28日・火〉
関東学生 23（8―10 15―5）15 ムッターシュタット
〈得点〉河原1 関1 若松1 李2 安藤4 上嶋2 浅沼2 田中1 北井1 大野8

◇第3戦〈2月29日・水〉
関東学生 30（13―11 17―7）18 ニーダーエッシュバッハ
〈得点〉河原3 福永1 関2 若松4 李2 田宇1 安藤3 上嶋2 浅沼4 北井1 田中1 大野6

◇第4戦〈3月3日・土〉
関東学生 22（11―7 11―10）17 ゾールベルグ
〈得点〉河原1 李4 安藤3 上嶋3 浅沼1 北井3 大野7

◇第5戦〈3月4日・日〉
関東学生 27（12―12 15―10）15 西ドイツ選抜
〈得点〉若松1 李2 安藤3 上嶋2 浅沼8 北井1 大野10

関西学生

●男子●

◇第1戦〈2月29日・水〉
関西学生 21（9―7 12―14）21 リューベック
〈得点〉宮下10 小間5 古賀2 坂本1 内田3
〈評〉前半は宮下のロングと速攻の日本と高さのリューベックの戦い。しかし遅行になると宮下しか頼れない日本に対し、平均身長185センチ以上のリューベックは、そのロングの威力によってリードした。後半になると選抜のDFがよく守り、また数々のGK小野の好守で一時は逆転したが、試合終了直前に追いつかれ惜しくも引き分け。

◇第2戦〈3月1日・木〉
関西学生 23（10―10 13―14）24 HSGリューネブルグ
〈得点〉宮下6 小間3 古賀5(1) 坂本3 田坂1 富士1(1) 木村2 福田1(1) 大野1(1)
〈評〉昨日のチームとはちがいHSGは個人のシュートは劣るが、ポストやコンビプレーが非常にうまく、前半から競り合いの好ゲーム。後半になると再々ノーマークチャンスがありながら相手GKの好守に阻まれ、また宮下の不調などもあって1点差まで追いつきながらもう一歩。しかしDFで劣勢の時も粘り強く最後まで喰いついことは評価できる。

◇第3戦〈3月2日・金〉
関西学生 34（16―11 18―15）26 BTSVビューデルスドリフ
〈得点〉宮下15(4) 小間4 古賀4 坂本8 内田2 福田1
〈評〉昨日の試合のためか、全員気合が入りムードは最高潮。立ち上がりBTSVの速いボールまわしとコンビプレーに戸迷い後半に回ったが、除々に得意の速攻に冴えをみせ、宮下のロングも面白いように決った。今遠征初めて前半リード。後半はBTSVも意地を見せ、2番のサウスポーのロングなどで一時は逆転されたが、執念を見せた日本がボールに最後まで喰いついて最終的には快勝となった。3試合目でコンビもあい、まだいけるメドがついた。

◇第4戦〈3月4日・日〉
関西学生 27（15―11 12―15）26 MTVゾルタウ
〈得点〉宮下10(6) 小間3 古賀1 坂本3 田坂1 鈴木1 木村1 福田5 大野1 岩本1(1)
〈評〉前評判が高くないチームだったので、スタメンを変えて臨んだ。しかし弱いといっても身長差は大きく、攻撃はできても守ることは全くできない。メンバーチェンジしても、しばらくはリズムに乗りきれず、点の取り合いと

なったが、後半になると持ち前の速攻で威力を見せた。最後1点差まで迫られたが、ふりきることができた。ハンドボールを始めて3年というMTVだが、ロングシュートの威力（高さ）が凄くヨーロッパの選手層の厚さを思い知らされた一戦だった。

◇第5戦〈3月5日・月〉

関西学生 18（10−12, 8−16）28 HSGハンブルグ

〈得点〉宮下9(5) 小間2 古賀3 坂本2 福田1 大野1(1)

〈評〉初めてのリジョナルとの試合だったが、やはりこれまでのチームとは一味も二味も違い、ボール回しの速さだけを取ってもついていくのに精一杯だった。宮下にも力みがみられ、いつものようにスマートなシュートが入らず、シュートコースも甘かった。後半からはメンバーチェンジを行ないながら戦っていたが、相手のペースを崩すまでに至らず完敗だった。しかし遠征をを通じて男子も大健闘だったと思う。

●女子●

◇第1戦〈2月29日・水〉

関西学生 20（10−11, 10−9）20 TUSリューベック

〈得点〉森山7 岡山3 野村1 林4 仲3 油並2

〈評〉立ち上がりポストやサイドなどでTUSに簡単に点を許した。長旅のためか波に乗れずリードを大きくされた。前半終了頃から速攻が決まり始めてあと一歩というところまで迫りながらオーバーステップやラインクロスなどのミスのためなかなか追いつけなかった。後半になってもミスが続出し、勝てる試合をみすみす逃がした。

◇第2戦〈3月1日・木〉

関西学生 27（15−5, 12−5）10 HGSリューネブルグ

〈得点〉森山5(1) 細見1 川端5 渡辺3 野村(千)1 仲4 山口1 神並4(1) 西田3

〈評〉立ち上がりから仲の速攻や森山のロングが決まり、波に乗った日本だったが、前半の終わり頃から相手の遅いペースに合わされてしまい、また速攻もワンパターンになり点差程の余裕はなかった。後半も攻撃が単調になり思うように得点が伸びず相手の凡ミスに助けられた試合だった。

◇第3戦〈3月2日・金〉

関西学生 33（14−3, 19−9）12 BTSVビューデルスドルフ

〈得点〉森山3(2) 細見1(2) 西川2(1) 川端1 渡辺4 岡山2 野村(4)4 林2 仲1 神並3(1) 西田8

〈評〉前半から日本は速攻が面白いように決まってBTSVを全く

試合の難しさを再確認

日本大学三年　金原理博

今回関東学生選抜のヨーロッパ遠征に参加させていただきまして大変に勉強になり、よい経験をさせていただきました。はじめて主将という光栄な大役を仰せつかりましたが、男子のまとまりが悪くここ一番の勝利に導くことができず、今まで以上に試合のむずかしさを痛感させられました。

初めて藤原先生、川上監督、藤村さんの御指導を頂きましたが、毎晩試合の反省と、次の試合の対策などを深夜まで熱心に教えて頂いたことは大きな喜びでした。

ところで自分自身のプレー面で感じたことは、やはり西独の選手にはパワーや大きさでは絶対に勝てないので、ディフェンスの出足、ポストの位置、攻撃では一歩先に動かないと勝てないと悟りました。このことは外国選手に対してだけではなく、ディフェンスのつめの速さ、ポストの位置、オフェンスの先に動いてボールをもらうということは試合をやっていく上での基本だと思います。このことは日本国内では小さいプレーヤーがよくやっていますが、大きいプレーヤーにはできないことです。今回の遠征で大きい選手も、自分よりもっともっと大きいプレーヤーと試合をしてそのことを実感できたと思います。

それから、ここ一番にノーマークシュートが決まらなかったり、パスキャッチのミスがあって勝てる試合を落としたことがありましたが、やはりみんなが飛び込んでシュートを放つ、又はトップスピードで走りながら平然とパスやキャッチができるという何気ないことが大切でむずかしいことだと感じました。

みんな遠征で何かをつかみとったと思います。そのプレーをもっと伸ばせたらすばらしいと思います。僕自身は今までやっていたポストプレーや一対一がどの程度通用するかためしてみたかったのですが、体が小さいため、外人の大きな体の中に入ってしまって全くボールの通らない状態になってしまいました。一対一ではやはり一歩でもすばやく大きな幅をもってかければ抜けられることを体験しました。今後なんとかリーグ戦、インカレなどでいいプレーのできるプレーヤーになりたいと思っています。

（関東学生選抜主将）

寄せつけない展開となった。後半もこの勢いがつづき、昨日までのミスもほとんどなく完勝といえる。しかし、対戦相手に物足りなさを感じる。

◇第4戦〈3月4日・日〉

関西学生 27（13―5 / 14―8）13 MTVゾルタウ

〈得点〉森山6(2) 細見1 西川1 福本1 渡辺2 岡山2 野村(4)2 林2 仲2 山口1 神並6 西田1

〈評〉相手のレベルがかなり低く前半から速攻が決まり快調な滑り出しだった。しかし相手を甘くみたせいか途中から凡ミスが続出、コンビも乱れる時が見られた。後半にはDFもおかしくなり、フォローのボールを2人でお見合いして相手に取られるなど、与えなくてもいい点もあった。明日は最終戦であり、ヨーロッパ遠征の総決戦となるのだから、最高の試合をしてもらいたい。

◇第5戦〈3月5日・月〉

関西学生 21（9―5 / 12―8）13 HSGハンブルグ

〈得点〉森山5(2) 野村(千)1 仲2 神並13(2)

〈評〉最終戦で全員に疲れが見えまたエース森山の不調のため、立ち上がりにリードされる苦しい展開となったが、1年神並のステップやロングシュートが決まり出し、前半リード。後半になると森山の調子も戻り、相手のパスミスや、キャッチミスに乗って速攻も決まり、無敗でこの遠征を終えることができた。長身選手を相手にするときはスピードで勝負するのが一番であることを女子は証明してくれたと思う。

皆の協力でいいチームが出来た

日本体育大学 小野陽子

今回のヨーロッパ遠征で全勝でき、本当によかったと思います。学生生活最後の試合をドイツチームを相手に出来たことはよい記念になりました。遠征前にコーチ、キャプテンという大役を任され、今まで敵として戦ってきたメンバーを短期間で一つのチームにまとめなければならず不安でしたが、皆の協力でよいチームができ、満足しています。藤原先生や石井先生の指導のもとでスタッフとしての面も勉強になりました。いろいろな学校からの集まりなのでハンドボールに対する考え方ややり方などにしても、個人的なつき合いも様々、日体大の後輩でも今まで知らなかった面があり、もう少し前にいろいろ理解していればもっと違った面で指導できたのにとキャプテンの責任の重さを今さらのように感じました。

ヨーロッパ遠征は二回目でしたが、ヨーロッパの文化、社会的な面に関しゆとりをもって見られるようになりました。もっと英語ができればよかったのにと悔しい思いをしたこともありましたので、ヨーロッパに関する勉強や語学力をつけてもう一度海外旅行に挑戦してみようと思っています。

遠征が終わればもう合宿も試合もなく、きっとぼんやりした人間になってしまうだろうと遠征前は思っていましたが、ハンドボールに関することでなくてもいろいろとやる気が出て来ました。できることなら自分でチームを持ち、遠征に参加できるような選手を育てたいと思います。そして自分が母親になった時にはぜひ遠征の話を、写真を見ながら夜通し喋り続けてやりたいと思います。四年間どうもありがとうございました。

（関東学生選抜主将）

関東学生男女選抜チーム 西ドイツ遠征選手団

役員

団長 藤原 侑（日体大監督）
監督 川上憲太（慶応大監督）
コーチ 藤村孝司（国士館大コーチ）
石井 幸（日体大コーチ）
小野陽子（日体大4年）
河原敦子（筑波大4年）
総務 上原正久（筑波大3年）
稲永珠代（日体大4年）
小谷 明
高井順次
沖邑一彦
通訳 金子恭久

男子選手

山田俊朗（法政大3年）
高橋明史（東海大3年）
板野清彦（日体大3年）
山崎貴士（筑波大3年）
菅田信也（東海大3年）
東福康浩（順天大3年）
山口和夫（明星大3年）
泉 直樹（慶応大3年）
水之江 充（法政大3年）
渡辺国夫（慶応大3年）
境 吉彦（日体大3年）
田中俊行（筑波大3年）
内間康貴（中央大3年）
金原理博（日本大3年）
朝生和光（筑波大3年）
近嵐成幸（国士大3年）
新井啓一（順天大2年）
中沢達彦（日体大2年）
武田大伸（日本大2年）
高岡具永（慶応大2年）
田野倉幸二（法政大2年）

女子選手

塩畑久美（日体大3年）
狩野浩子（東京学芸大2年）
佐藤和子（東女体大3年）
関奈緒美（筑波大3年）
若松令子（日体大3年）
李 恵美（日体大3年）
由宇博美（筑波大3年）
安藤昌子（日女体大3年）
上嶋美佐子（日体大2年）
浅沼由己（日女体大2年）
北井洋子（日女体大2年）
田中幸子（日体大2年）
大野美加（日体大1年）

科学研究委員会報告

PART 1

ハンドボールゲーム中における選手の動きの質の分析について

―昭和56年度報告書より―

〈はじめに〉

日本ナショナルチーム選手も近年大型化してきたが、世界の上位チームに比べると充分なものではない。

当面日本が世界の大型チームに対抗するためには、現選手の走能力を向上させ、形態的な劣勢をスピーディな動きにより補うことが重要であると考えられる。この走能力を強化するためには、強化されるべき走運動の質を明らかにしなければならない。

そこでフランス国際トーナメント大会の日本対ポーランド戦を例に、ゲーム中の選手のステップの種類と方向性を比較検討した。

研究方法

1　調査対象：1981年12月に開催されたフランス国際トーナメント大会に出場したポーランドチーム（優勝）と日本チームとした。試合の記録は、ハンドボールコート後方上部に設置されたビデオカセットレコーダーで行なった。

2　分析観点：分析の対象とした選手は、ポーランド、日本各チームとも、ゴールキーパー以外の6名のフィールドプレーヤーとした。

走動作の分析は、全試合中に出現する2チームの走動作の種類、及び時間経過に伴なう走動作の方向の2点について行なった。

走動作の記録に際し、ゴールイン後スローオンにより攻撃が再開されるまでと、警告・退場・ペナルティ等の理由で競技が中断されているときの動きは省略した。

3　ステップ動作の記録：走動作の種類は、競技中に多く出現することが予想される以下のステップに分類し記録した。

①クロスステップ
②サイドステップ
③バックステップ
④ノーマルステップ
⑤スキップ
⑥ジャンプステップ
⑦その他

④のノーマルステップは、その動きをより細かくするため、ダッシュとジョギングと歩行の3種類に分けた。

各動作は、2回以上連続して行なった場合のみを記録した。また一つの動作が継続されているときは、その動作が終了するまでを1回としたが、継続している動作の

方向が切り変えられたときはその都度1回づつ加えていった。

走動作の方向の記録に際し、以下の理由から攻撃時と防御時における方向の基準を変えた。

即ちハンドボール競技では、半円型に近いゴールエリア付近で攻防が展開される。そこで、攻撃では、敵ゴール方向に進んだ時に前進したと判断すべきであるが、防御では自ゴールと自己の位置の延長線上を自ゴールと反対方向に進んだときを前と判断すべきであると考えられる理由による。

そこでゴールに対する走方向の基準を攻撃と防御で異なり、前・横・斜前・斜後・静止・上・その他の各動作方向に分類し記録した。

4 分析処理：ハンドボール競技における走動作は、選手の攻撃及び防御のポジションにより、多少の差があると考えられる。しかしここでは、チーム力としてのステップ動作を比較検討するため各選手のステップ動作の種類及びその方向を百分率（出現率）にして表わした。そして各チーム6名のステップ動作の出現率の平均値をそのチームのステップ動作として表わした。

(Total Number of Stepworks=100%)

		Cr	Side	Back	Walk	Jog	Dush	Ot
攻撃	Japan	8	21	17	19	8	18	9
	Poland	8	11	20	24	7	24	6
防御	Japan	7	28	16	20	5	15	9
	Poland	9	40	12	14	4	17	4

cross step　side step　back step　walking　jogging　dush　others

図1　走運動における動作種類別出現率

結果と考察

1．『ハンドボールゲーム中における選手の動きの質の分析』について

1 日本チームとポーランドチームによるステップ動作の種類を攻撃時と防御時に分けて表わしたものが図1である。スキップ・ピボット・ジャンプステップは、出現頻度が少なかったため、その他の項目に含めて処理した。

日本チームは、攻撃においてサイドステップを最も多用しており、歩行・走行・バックステップの順になっている。一方ポーランドチームは走、歩行が第1番目に多く、バックステップ、サイドステップの順になっている。

攻撃時において最も素早く有効に移動できるダッシュは、形態的に劣る日本チームが多用すべきステップワークと考えられるが、ポーランドチームのほうが多く使用していた。また移動方法としてスピードに欠けるサイドステップの使用頻度は日本チームがポーランドの2倍近くになっている。

短距離の移動に多く使用されるサイドステップの使用頻度が多い日本は、ポーランド以上にこのステップの多くをダッシュに切り変え、短距離の移動を瞬間的に行なえるようにする必要があると考える。

つまり、瞬間的なダッシュを繰り返して行なえる能力（無酸素的走能力）の向上を目指す必要があると思われる。

防御で、日本チームは、走行の出現率が目立って多い。これは、外国チームがあまり速攻を多用しなかったため、日本が攻撃から防

日本の攻撃　ポーランド防御　Poland Offense　Japan Defense

0-10　10-20　20-30　30-40　40-50　50-60

F 前方向　Si 横方向　DF 斜前方向　DB 斜後方向　B 後方　St 静止　J 上方向　O その他

※左側上段は日本の攻撃時を示し左下段のポーランドの防御と対をなすものである。右側は同様にポーランドの攻撃時で日本がその防御を行っていることを示す。

図2　時間経過にともなう動作方向の比較

御に移る際に早く帰陣する必要がなかったためと思われる。

ただ、身長差のある外国チームに対して、日本は防御位置を前にしてプレスディフェンスをする必要からも、ダッシュの出現率が現在以上に多くなるよう努力する必要があると考える。

ポーランドチームの防御におけるステップではサイドステップが40％と非常に高い数値を示していた。これは今大会参加チーム最高の平均身長を有していたため、プレスディフェンスを少なくした防御を行なった結果と思われる。

2　走動作の方向に関する分析では、時間的経過（疲労を伴なう）が走動作の方向に及ぼす影響を明らかにするため、試合中の動作を10分毎に集計した。図2は日本とポーランドの攻撃及び防御時における走動作の出現率を、10分毎に表わしたものである。

試合前半では、日本、ポーランド各チームとも攻撃、防御においてほぼ同様の走動作を行なっている。ところが試合後半における日本チームの動作方向は、時間の経過に伴ない前方向のステップ動作が減少し横方向のステップ動作が増大しておりこの間には有意な差（$P<0.01$）が見られた。

時間の経過に伴ない横方向のステップ動作が多くなる傾向は、ポーランドにおいても見られたが、最も顕著なのは図右下の日本チームの後半の白抜きの部分すなわち横方向への動きである。この部分をよくみると、ディフェンスにおいて最も肝腎な前後の動きが減少しその部分を横の動きが増大していた。

走動作の種類および方向という質を分析した結果、日本チームはポーランドチームに比べて攻撃時にサイドステップを多用している。また日本チームの防御はゲーム後半、特に最後の10分間に横方向の動きが多くなることが判明した。このことは勝敗を決する最重大時期に前後方向へのピストン的な密着ディフェンス（詰め）が不可能となることを意味している。短い距離の移動能力の速さとその持続能力の開発がのぞまれるところである。

以上のことから、形態的劣勢にある日本チームが、世界の上位にある大型チームに対抗していくためには、今まで以上に幅広く、スピーディーに動きうる瞬間的なダッシュ能力、つまり持久的な運動能力をもったうえでの無酸素的パワーの向上を目指す必要があることが痛感されたのである。

まとめ

プレーインググランドで常々感じているゲームや練習中の疑問を数量的に明らかにし、志を同じくする人達に広く伝え、良いものはどんどん取り入れ、我がチームだけでなく、地域の競技界ひいては日本代表チームのレベルアップに反映したいものである。ハンドボール競技ほど走ることと投げることが深く結びついているものはない。走法の研究は陸上競技の研究者にまかせておく訳にはいかない。ハンドボール競技では陸上競技にない停止技術、方向変換技術そして後方への走行技術が含まれているのである。そこでどの方向により多く、どのような足運びが使われているのか、そしてそれが試合時間経過に伴なってどのように変化してくるのかを調べてみた。

ハンドボールゲーム中のナショナルチーム選手の動きの質を分析した結果、日本チームは攻撃において短距離の移動時にサイドステップを多く使っていた。防御では試合の時間経過に伴ないサイドステップが多くなることが分った。

参考文献

1）青木純一郎、玉木伸和："階段かけ上り"による無気的パワー、新体育、45：544－547、1975
2）青木純一郎、心拍数 — 運動強度の指標としての意義と限界、新体育、46：660－665、1976
3）Astrand, P. O. and K. Rodahl : Textbook of Work Physiology, McGraw-Hill, 1970
4）広田　彰、米倉公司：心拍数からみたハンドボール試合の運動強度、新体育、48(2)、154－157、1978
5）石井喜八：ハンドボール選手のための体力測定項目の検討、日本体育協会スポーツ科学研究報告書：1－5、1977
6）加賀谷淳子：心拍数と作業強度、体育の科学、26：203－208、1976
7）Margaria, R., P. Aghemo and E. Rovelli : Measurement of muscular power (anaerobic) in man., J. Appl. Physiol., 21 : 1662－1664, 1966
8）Margaria, R. : Aerobic and anaerobic energy sources in muscular exercise., Exercise at altitude, Excerpta Medica Foundation : 15－32, 1967
9）Mathews, D. K. and E. L. Fox : The physiological basis of physical education and athletics Saunders, Philadelphia : 201, 1971
10）Mikkelsen, F. and Olesen M著, ノルウェー領事館訳：Efude physiologique du Hand-Ball.
11）中唐二三生、新井節男：身体の位置移動を伴なうパワー測定法の検討、大阪府立大学体育学紀要、1：16－24、1980
12）中唐二三生、生田香明：自転車エルゴメーターおよび階段かけ上りによる無酸素的パワー、体育の科学、30：933－937、1930
13）白井正彦：男子ハンドボール選手の体力と競技時心拍数の変動からみた運動強度の検討、筑波大学体育専門学群卒業論文抄録集：1979
14）山地啓司：心臓とスポーツ（心拍数による健康法）、共立出版：1982

連載——第3回
IHFシンポジューム報告

光島　磯雄

『攻撃における戦術としてのスクリーンプレーの可能性』

——ヤロスラフ・ムラッ（ハンガリー）

単数にせよ複数にせよ、防御プレーヤーの動きのすべてか一部かに制約を加えようとする意図はすべての防御法に対する攻撃手段の基礎をなすものである。これは、外見上は簡単にみえるものの実際はそうでなく、得るところの多い二人以上の攻撃プレヤーによるチームワークが空間的、時間的にも一致してこそ真価を示すものである。1982年の世界選手権大会でのトップチームの試合の分析により我々は、スクリーン戦法を十分活用したチームの数が多いものでなかったこと、そしてそれに成功したものは、より少なかったことを見届けた。図1によりチームがスクリーン戦法によるチームワーク形成に進歩を示していない理由として以下に若干の要因をあげてみる。

——トレーナー自身がスクリーン技術の応用について十分な評価をしていないこと。

——トレーナーはスクリーンテクニックというものを安易に考えてこれをトレーニング内容で実際的方向へ改良することにあまり積極的でないこと。

——レフェリーは完全に美事なスクリーンプレーをあたかもルールに反した攻撃プレーのプッシングと判断し正確にみていない。

——レフェリーはまちがっている防御プレーヤーの行為を反則と判断していない。

スクリーンプレーがレフェリーによって価値ある攻撃法として扱われていないということは、とりもなおさず、トレーナー側もスクリーンプレーを敬遠放棄する理屈で反応してしまうのである。

我々はトレーナーとレフェリー相互がスクリーンの定義の触釈や、スクリーン方法の各種の様相について考え直してこれらの攻撃プレー中のプレーヤーの戦術行動をただ単に知っているだけで終らず、もっと改良進歩させるべきであると考える。

1　スクリーンの技術的実施方法

スクリーンプレーは1人又は2人以上のプレーヤーがルールにのっとった方法で、その動きによって防御側に防御の必要性を感知するいとまも与えぬうちに防御プレーヤーの動きを封じることであり、スクリーンをした場所で並立して自チームに好都合の位置を占めることと理解するものである。

スクリーンテクニックをどのように展開すればルールに反しないものになるかを解明することは大切である。

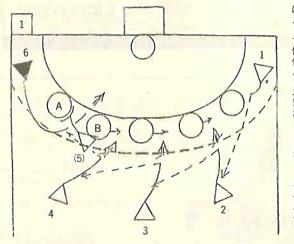
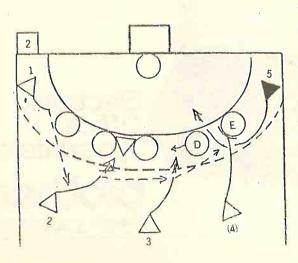
ルール8条（相手に対する動作）では次のことが許されている。8−3　相手をたとえばボールを持っていなくとも、その進路を身体でさえぎること。

次のことは禁じられている。

8―4　相手を両腕、両手、両脚（一方の部分でも）で進路をさえぎったり妨害したりすること。

8―10　相手を一方か両方の腕で抱きついたり、つかまえたり、突きとばしたりすること。

8―11　相手に対し走ってぶつかったり、ジャンプしてぶつかかったり、相手の前に脚を出したり、なぐったり、又はその他の方法で相手に危険をおよぼすこと。

ルール8でスクリーンプレーを行うときみとめられることとしては、

— 攻撃側が相手に対して身体のどの部分を使っても相手を止めたり、又は立ちふさがってよい。

— 攻撃側は防御側に対して両者、動いている状態ならば衝突してもよい。（但しどちらかが先に停止すること）。

— 攻撃側はスクリーンをするため身体を用いてよい。このとき身体にともなう脚のうごきとして相手の前に出ることは問題ではない。

　ルール8条とその戦術的立場を考えてみるとスクリーンの型はおよそ次のように観察すべきである。

— 立止まっている防御プレーヤーに対してボールなしで行うもの、ビデオA。

— 立止まっている防御プレーヤーに対してボール持ちで行うもの、ビデオB。

— フリーな場所（防御のいないところ）で攻撃プレーヤーの立つ場所、ビデオC。

— 動いている防御プレーヤーに対してスクリーンをする攻撃プレーヤーが、つきあたる。ビデオD。

　より高度なすばらしい絶妙なスクリーンプレーの効能はそれが、攻撃側が自由な態勢（防御の妨害の及ばない）で行れることであり、かつまた彼が意志と反対の行動を示す暗示をもとにノーマークとなることである。このいつわりの攻撃姿勢によって、防御プレーヤーは誤った感受性をはたらかせることとなり、防御のためマークしていた相手にすばやく、そのスクリーンの行れる所へ行けない結果を招来する。もしこのスクリーンプレーが早すぎたときは攻撃側は往々にして腕、脚、腰で防御プレーヤーの近づくのを阻止しようとする。ノーマークとなったボール保持の攻撃プレーヤーというものは、防御陣のすき間にとってこの上なく危ないものである。そこでそのノーマーク状態の攻撃プレーヤーの近くにいるすべての防御プレーヤーはなにはさておいても、ただちにアクションをおこすことになる。スクリーンをしたプレーヤーはその行為のあと自分自身他の有利なポジションに行きたがるものである。しかしながらスクリーンをされた防御プレーヤーはシュートがどの方向に打たれるにしても往々にして反則手段で妨害に出る。ビデオD。

　良くかみ合わされたスクリーンプレーは必ずしも攻撃側のノーマークシュートという成功につながらない。特にゴールエリア、まじかでのスクリーンはスクリーンされた防御プレーヤーがゴールエリアを無視して侵入し近道をする守り方によって台無しにされるこ

とがある。レフェリーはこの違反について全然吹笛しないか、又はこの防御プレーヤーの恣意によるゴールエリア内への侵入について不適切な軽い罰しか与えていない。ビデオE。

2　スクリーンの戦術的応用

我々の今回の短い講話の中でプレーヤーがスクリーンプレーを応用する活動の範囲（可能性）について着目し整理してみることとする。

2－1　地域防御型式

活発な地域防御型式をとる防御プレーヤーの行動に対するせり合いでは、攻撃側は防御プレーヤーの動きを以上記すような空間場所で制約しようとする。

― ゴールエリアラインに沿って、
― スリースローラインに沿って、
― コートの方向へ（ゴールエリアラインから外）
― ゴールエリアラインに向って、

2－1－1　ゴールエリアラインに沿って

ゴールエリアライン真近では主に最もアウトサイドにいる防御プレーヤーが、又はゴールエリアライン中央付近にいる攻撃プレーヤーのそばにいる防御プレーヤーがスクリーンの対象となる。

最もアウトサイドにいる防御プレーヤーの動きをゴールエリア中央寄りに誘って制約するには、主としてゴールエリアライン中央か同じくその曲りの部分にいる攻撃プレーヤーがスクリーンを実行する。このスクリーンによってアウトサイドにいる攻撃プレーヤーが第1と第2の防御プレーヤーの間をゴールエリアライン方向へ走りぬけることが可能になる。

最もアウトサイドにいる防御プレーヤーをゴールの外側のゴールライン方向へ誘うには、アウトサイドの攻撃プレーヤーがボールを待ちでか、又はボールなしでスクリーンを行う。(図3)。防御プレーヤーにとって彼が、ゴールエリアライン中央にいるか自己の近くにいる攻撃プレーヤーを防ぐことに注意を払うことは極めて重要である。ゴールエリアライン中央にいる攻撃プレーヤーはいつでもその位置から防御プレーヤーの誰れかをスクリーン(図4・5)したり、又はゴールエリアライン中央の攻撃プレーヤーとの攻撃システムで外側から走り込んでくる味方プレーヤーのためにスクリーンをかけることが出来る(図6)。

二人のゴールエリアライン中央にいる攻撃プレーヤーによる攻撃法でのスクリーンは主として、この2人のどちらかが主役となる。

2－1－2　フリースローラインに沿って

前方に出ている防御プレーヤーに対するスクリーンでは攻撃プレーヤーは防御の壁の動きがボール保持者の方へ向うスピードを鈍らせることにつとめ(図8)、これにより攻撃プレーヤーの走り込みにフリーな空間、場所を提供し(図9)、又はスクリーンによってアウトサイドにいる攻撃プレーヤーをノーマークにする(図10)。

2－1－3　コート中央方向に向って

この防御の連けいに対するスクリーンは攻撃プレーヤーが防御プレーヤーのボール保持攻撃プレーヤーに対する防御行動を制約するにある(図11)。

2－1－4　ゴールエリアライン付近で、

このスクリーンは主にゴールエリアライン中央にいる攻撃プレーヤーにより行れ、前進して別の攻撃プレーヤーにスクリーンをしかけるものである(図12)。

2－2　防御コンビネーションシステム

攻撃チームはスクリーンプレーにより、防御チームが攻撃プランをみだしたり、又はシュートしようとしている者に対して自由に行動したり、目下の急務たるボール保持者の処置についての協同防御システムをあきらめさせるものである（図14・15）。

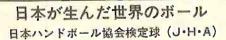
スクリーンプレーによる経験とそれに適切に対処することの出来る防御プレーヤーに対しては、スクリーンプレーは、もう一つ高度な術策がより大きい効果をもたらすであろう。このような試合状況では攻撃プレーヤーは前もってスクリーンの方向などを示したりして逆の方向にそれをはたらかせたりする。（図16）。

2－3　マンツーマンディフェンス。

チームのFP全員によるマンツーマンディフェンスは多くの場合試合の終り方に用いられる最終的防御法である。心理的にこのような特異な試合状況では攻撃プレーヤーは多くの場合、ボール保持者が自由に動くだけでなくボール保持者なしのプレーヤーが有利なポジションを得ることにより、ボールの運用を円滑にすることを失念してしまう。（図17）。

2－4　フリースローのとき攻撃プレーヤーの何人かによるスクリーンプレーを背景としたフリースローコンビネーションは得点能力の高いプレーヤーがフリースローライン付近からのシュートポジションにつくのを容易にする（図18）。

スクリーンプレーと誘い込みによ

るフリースローコンビネーションはゴールエリアライン付近でのボール保持者（そこへパスが行くこと）のフリープレーに応用されることが多い。（図19、20）。

前記の通り広範囲にわたる試合状況の列挙により攻撃プレーヤーはスクリーンを戦術として通用させることが可能であり、プレーヤーが反則なしのスクリーンプレーを練習し、しかも同時にすべてのクラスのレフェリーが、そのチームワークによりスクリーンプレーを適確に判定をくだすことを保証することの重要性が理解されるものと信じる。それについては我々は多くの教材により皆さんにトップチームによる試合でのスクリーンプレーの写真を用意している。ビデオF。

19

17

20

18

連載——実戦から見た技術講座

簡単なゲーム分析

その1　56年度全日本総合選手権から

元中大附高監督　川上　整司

今回は、国内の最も大きなタイトルのかかった全日本総合選手権の中から10試合を選び、どのゾーンで、どんな動きからパスをし、シュートがなされるか。

効率の良い攻撃とは、どんな方法か調査してみた。

目まぐるしく変化し、同時に選手個人の心理状態も時として変るボールゲームは、科学でも分析するのは不可能に近いのではなかろうか。それでも我々は少しでも科学的分析にアプローチすることが今後の技術向上に繋がるのではないかと思う。

これは初歩的なゲーム分析なので、中学、高校生の戦術として少しでも役立てば幸いである。

(1) シュートの種類とその成功率

ハンドボールは、シュート力が何と言っても勝敗を分ける大きな鍵であることはここで言うまでもない。勿論、そこに至るまでのパス、フェイクなど、ボールコントロールやボディコントロールの技術が修得されていないとシュートチャンスをつくることはまず困難である。ここでは1試合の中で何本のシュートが打たれたか、そしてそれらのシュートの中でどのような種類のシュートが使われているか調べてみた。

まずジャンプシュート、ステップシュート、倒れ込みシュート、ループシュート、スカイシュートの5種類に分け、全てのシュートをその種類のいずれかに入れた。

調査前の予想と大体使用されたシュート順位は一致したが、パーセントに於いてはかなりの違いがみられた。全体から見ると、シュート数917、成功452、失敗465で成功率は49%で約5割を示した。しかし、これらのシュートは直接G・Kに打たれたものが、シュート時に反則でアゲインのフリースローになったものやバックスにブロックされて相手の速攻に繋がったもの、さらには、ワンタッチあってコーナーからのスローインになったものは除いてあるので、シュート全体から見た場合は、成功率はこれより低くなる。従って、これは完全にシュートがなされた結果である。

図1

最も多く使われたシュートは、図1が示すように、ジャンプシュートの70%、次に倒れ込みシュートの17%、続いてステップシュートの8%、ループシュートの3%、スカイシュートの2%であった。表1の成功率をみると、ジャンプシュートは44%、倒れ込みシュート74%、ステップシュート40%、ループシュート48%、スカイシュート55%であった。ジャンプシュートの成功率は44%と低いが、これはミドルからとロングゾーンからのシュートが多いために低くなっている結果であろう。

矢張りハンドボールはジャンプシュートが最も多く使われる。これはハンドボールの動きの流れに、自然にこのフォームがマッチするからだろう。しかし、決定率は全体からみると低い。ここの成功率が、勝敗に大きな影響を与えるのは間違いないと考えられる。

倒れ込みの74%は非常に高い率を示したが、これは主にポストからのシュートであるために高い率を示しているし、GKと一対一のために断然シューターが優位に立つのは当然である。ステップは40%、このシュートは普通、臨機応変に使い分けることが多く、試合の展開によって、かなり違いが出るようだ。この10試合では40%と出たが、僅かの空きを狙って打つシュートで咄嗟の判断で変化できる能力が必要なために、ある面では高度な技術を要するので、ビックゲームで使い分けるのは、なかなか困難な技である。そのため、か非常に少なかった感がする。

表1

シュートの種類	ジャンプシュート	ステップシュート	倒れ込みシュート	ループシュート	スカイシュート	合計
シュート数	639	72	155	29	22	917
ゴールイン	282	29	115	14	12	452
ノーゴール	357	43	40	15	10	465
成功率	0.44	0.40	0.74	0.48	0.55	0.49

次にループシュートは、少し低かったような気がする。これはGKが前進したことを確認した後にシュートを切り変える技で、GKの動作の後にボールを離すために、確率はもっと高くなければ意味をなさないと思う。この確率の低いのは、円を描くコースに問題があったように見えた。要するに、強打と見せかけてGKを引き寄せ、その後に浮かすために放物線のコースさえ決めれば、まず決定的なシュートな筈だからである。難しい技術であることは確かである。だからこそ慎重に使い分けるべきだ。

表2はペナルティスローを加えた全シュートを示したものである。

図2

シュートの種類	本数	割合
ジャンプシュート	639本	70%
ステップシュート	72本	8%
倒れ込みシュート	155本	17%
ループシュート	29本	3%
スカイシュート	22本	2%

表2

シュートの種類	J.S.T.L	Sky	P.T	合計
シュート数	895	22	76	993
ゴールイン	440	12	52	504
ノーゴール	455	10	24	489
成功率	0.49	0.55	0.68	0.51

(2) ペナルティースローの成功率

表3－1～3は、ペナルティスローの結果である。ペナルティースローは、最も攻撃に有利なシュートである。従って、決まって当然のように思えるが、なかなかこれが難しいスローであり、それが激戦であったりすると精神的に大きく左右されることがある。

それらを考慮すると、シューターが有利かキーパーが有利かは、試合の展開、状況の変化によって違ってくるし、また、それぞれの選手の性格やその時々の精神状態でも変るので、ここでは断定できない。

76本中、52本成功、68%は56年度全日本総合選手権大会の結果であり、この10試合を観た限りでは、いずれか一方が特に当ったということはなく、互いに充分であったように観た。そのようなことから考えると68%は妥当な確率が出たのではなかろうか。勝敗のチーム別での差はほとんどなかった。シューターとGKの一対一のような単純な動作ではなく、寧ろ、ここでは、敗チーム群がやや確率が高い点に注目したい。

表 3－1

シュートの種類	P.T
シュート数	76
ゴールイン	52
ノーゴール	24
成功率	0.68

表3－2　勝者チーム群

シュートの種類	P.T
シュート数	36
ゴールイン	24
ノーゴール	12
成功率	0.67

表3－3　敗者チーム群

シュートの種類	P.T
シュート数	40
ゴールイン	28
ノーゴール	12
成功率	0.70

(3) フリースロー攻撃からの確率

表4－1は、フリースロー攻撃の結果である。10試合中、15回のフリースロー攻撃が行なわれたが、その結果、成功7、失敗8で成功率は48%で約½の確率を示した。10試合中、7試合でスリースローが打たれ、最高は1試合4回であり、このチームは次の試合でも4回試みていた。合計3試合で10回試み、5回の成功率を示している。その他のチームは、2回が最高で、残る3チームは1回ずつで、その他のチームはほとんどなく、フリースローは平凡に振り出しに戻していた。

フリースローを与えられたゾーンで特に多かったのは、図1が示すJゾーンであり、9回、次にIゾーンで4回、Kゾーンで2回とほとんどがセンターに集中しているのは当然かも知れない。また、GKから見て右側と左側からでは、右側、つまりIゾーンが多い。これは右利きの選手はステップした後に角度が広がり打ち易くなるためであると思う。2回、4回と試みた2チームは、いずれも日本を代表するチームでこの大会でも決勝戦で激突している。そして互いに長身のエース級を持ち、ロングシュートを打つことができたため、それを攻撃の一つに加えていることは、非常に効率の良い攻撃法を創れる可能性を備えている。

表4－2～4－3のように、勝敗別にみると15本中14本は勝者チーム群であり、確率は50%を示した。敗者チーム群は、たった1回で試技さえなかった。勝者チーム群は、攻撃有利のパターンを巧みに利用し、効率の良い攻撃をしていた。

表4－1

	F.T
シュート数	15
ゴールイン	7
ノーゴール	8
成功率	0.47

表4－2　勝者チーム群

	F.T
シュート数	14
ゴールイン	7
ノーゴール	7
成功率	0.50

表4－3　敗者チーム群

	F.T
シュート数	1
ゴールイン	0
ノーゴール	1
成功率	0

海外トピックス

ロス五輪を控えて駆け引きと活気

NHK運動部　杉山　茂

今シーズン（昨秋十月〜六月）は、いわゆるプレ・オリンピック。

ロサンゼルス前年とあって、ヨーロッパ各国ナショナルチームの動きは、さまざまなかけ引きを見せながらも、例年以上の活気を示している。

また、四つの世界選手権が開かれたことで、新しい〝勢力地図〟ができあがり、特に十月の第四回世界女子ジュニア（フランス）で韓国が三位に入賞したことは、大きな波紋を拡げ、八〇年代後半の激動を予測させるに充分なできごととなった。

ビッグイベントを中心に、これまでの海外の主なニュースをまとめておこう。

韓国、世界女子Jで3位に

「ハンドボールは、いまやヨーロッパのものでなく、明きらかにグローバルなスポーツとなった」——昨秋十月、フランス各都市に、日本など十六ケ国が参加して開かれた第四回世界女子ジュニア選手権で、韓国が、スウェーデン、ポーランド、ユーゴなど伝統国を破った殊勲をベースに、三位入賞をはたしたとき、国際ハンドボール連盟（IHF）の関係者やベテラン記者たちは、いっせいにこう云ったものだ。

日本が出場していたにもかかわらず、この大会の詳細が、本誌にまったく報じられなかったのは不思議だが、ともかく、韓国の活躍は目ざましいものがあった。

予選リーグは、抽せんのいたずらで日本、韓国、中国、東ドイツと、まるでアジア選手権。

韓国は、いきなり優勝候補東ドイツと13—14の大激戦を演じて自信をつけ、つづく日本、中国を手もなくひねってみせた。

準決勝リーグに進んでも、その好調はつづき、有力とみられたポーランドを27—22で降す。

こうなると、東ドイツ戦の惜敗が悔やまれ、この対戦が、もう少し後（うしろ）に組まれていたら、あるいは、とさえ思わせる韓国の進撃だった。

ユーゴとの三位決定戦、韓国は前半で六点差の優位に立ち、後半相手の必死の反撃をかわして26—23で勝利、ヨーロッパ以外の国がメダリストになったのは史上初、という快挙を成しとげた。

韓国は一昨年の世界女子選手権で六位入賞を果たし、来年ソウルに第五回世界女子ジュニアを招いていることなどを考えるとソウルオリンピック（一九八八）での銀あるいは金の希望も夢ではなくなってくる。

なお、優勝はソ連（三連覇）、二位東ドイツ、日本は十五位だった。

ソ連、世界タイトルを独占！

女子を追うようにフィンランドで行われたのが第四回世界男子ジュニア選手権。

アジア予選一回戦で日本が中国に敗れ、その中国がクウェートに降るというジュニアならではの波乱が、本大会でも随所にみられた。

ベストエイト（準決勝リーグ）に勝ち上ったのは、ソ連、デンマーク、東ドイツ、チェコ、西ドイツ、スウェーデン、ユーゴ、フィンランドで、A組では、ソ連が三勝をマークしたものの、チェコには24—23、デンマークにも前半9—10とされる苦戦。

デンマークがチェコ、東ドイツを破ったのは、大きな話題となった。

B組は、実力伯仲の激戦がつづき、ユーゴがわずかにリードして、そのまま逃げ切るかと思えたが、最終日、スウェーデンの気迫に押され25—28と不覚をとった。

これで西ドイツ、スウェーデン、ユーゴが同勝ち点となり、オリンピックアジア予選で、すっかりおなじみとなった通称「25%ルール」（獲得可能勝ち点の25%に満たないチームとの対戦記録を削除する）を適用した結果、西ドイツの一位が決まった。

七八年の世界制覇（シニア）以来あまり明かるい話題がない王国・西ドイツにとって、今回の進出は久々に、同国関係者を喜ばせるもので、ソ連との決勝は、熱気をはらんだが、ソ連が圧倒的な攻撃力を示し、32—17で三連覇を飾った。

ソ連はシニア男女、ジュニア男女を四つのワールドタイトルを独

占したことになり、その強さは驚異的、といってよい。
アジア代表のクウェートは、下位リーグでエジプトを破り、イタリアと引き分けたが、最終順位は十二位に終った。

ロス代表に東独女子決まる

ロサンゼルス・オリンピックの女子ヨーロッパ代表権をかけた第三回世界女子選手権Bグループは十二月ポーランドで行われ、東ドイツが地元の大声援をうけるポーランドの猛攻に苦しみながら20−19で辛くも勝ち、貴重なチケットを握った。

参加したのは、ヨーロッパ地域の十二ケ国。六ケ国づつ二組の予選リーグのあと、各組同位同士で順位決定戦というシステム。

ロサンゼルスに行くには、まず、予選リーグで一位にならねばならず、白熱した試合の連続となった。

A組では、予選どおり東ドイツ、ルーマニアの争いから、東ドイツが20−19で逃げ切り、B組はポーランドを追うとみられたチェコが西ドイツ戦を引き分けたため、ポーランドが比較的、楽に決勝へ進出した。

東ドイツーポーランドは、これまでの実績からすれば、東ドイツに六分以上の有利さがあったが、さすがに緊張の色をかくせず、ホームコートの利を活かすポーランドの肉薄にあって再三ピンチを招いた。

しかし、東ドイツのオリンピックへの執念はすさまじく、残り五秒を切って決勝点を奪い、初優勝とともに、ロサンゼルス行きを決めた。

Bからの浮上とはいえ東ドイツは有力金メダル候補。

九位決定戦、スウェーデンーノルウェーも史上に残る激戦だった。22−22で延長にもつれこみ、そのあとも一進一退、第一延長でも結着がつかず、第二延長26−26の時間切れ寸前、スウェーデンが連続二ゴール、苦闘をものにした。

なお、デンマーク選手が、予選リーグのルーマニア戦で、禁止されている薬物を使用したのが、試合後のドーピング検査で発覚、IHF史上初の失格と、ルーマニアの没収勝ちが宣告される事件があった。

トルコ、アイルランドが登場

今シーズン四つ目の世界選手権は、つい先ごろ二月三日から十一日までイタリアで行われた第五回Cグループ男子だった。

参加国は、初出場のトルコ、アイルランドを含めた十二ケ国（いずれもヨーロッパ地域）で、八六年の第十一回世界選手権Aグループ（スイス）への道のスタートになった。

優勝争いはブルガリア、オランダ、フィンランド、イスラエル、オーストリアなどもBグループ経験国の間で演じられるもの、という予想どおりの展開となり、予選リーグを一位でかけ抜けたブルガリアーフィンランドの決勝から、地力に優るブルガリアが25−19で快勝した。

かつては、Aグループで活躍、上位進出を期待されたほどのブルガリアの優勝は、当然ともいえるが、一つ間違えばCにまで転落してしまうヨーロッパの伯仲と厳しさを感じさせる。

三位オランダ、四位イスラエル、五位イタリアまでが、来年二月の第五回世界選手権Bグループ（ノルウェー）に参加できるが、名門オーストリアは、最後の座をかけた五位決定戦で地元イタリアに21−25で敗れ、復活のチャンスを、またしても遠いものにしてしまった。

注目のトルコ、アイルランドは地中海競技大会（後掲）などでもまれているトルコが、ブルガリアに18−23と食い下り、オーストリアには24−24の引き分け、イギリスを25−15で破るなどしたのに比べアイルランドは、攻守にまだまだ形をなしていず、いきなりイタリアに50点を奪われたほか、イスラエルに62−3、フィンランドに61−4と記録的な大敗を喫した。

このところ活発な動きをみせているイギリスは、ベルギーに力負け、十位に終っている。

ルーマニア、強豪ソ連を撃破

ロサンゼルス・オリンピックの男子金メダル戦線を占ううえで、大きな意味をもつ第三回スーパーカップが、十一月西ドイツで行われ、伏兵ともいうべきルーマニアが優勝をさらった。

この大会は、西ドイツ協会（DHB）が二年にいちど開くドル箱のイベント。

参加国が、世界選手権あるいはオリンピックの優勝国に限られるというのだから「スーパー」の名に恥じない。

今回から、東ドイツ（モスクワオリンピック優勝）が顔を見せ、西ドイツジュニアを加えた七ケ国八チームが、まず二組の予選リーグ、そのあと各組一、二位で決勝

トーナメントを争った。
波乱は諸戦のルーマニアーソ連であった。
ナンバーワンとみられたソ連が終盤二点のリードを守り切れず、22—19で逆転負けしてしまったのだ。
ビッグフォアはルーマニアーチェコ、ソ連ーユーゴと東欧勢で占められ、ルーマニアがチェコにてこずりながら勝ち、ソ連はユーゴを押し切った。
ルーマニアーソ連の再対決。一万を越す大観衆は、まさかソ連が連敗するとは思わなかったが、自信をつけたルーマニアは立ちあがりから積極的な攻撃を仕掛け、いちじは五点差をつけた。
この成り行きにスタンドは熱狂さらに、そのあとにみせたソ連の奮起でボルテージは最高潮に達した。
22—22から延長、勝運はソ連に傾かとみえたが、ルーマニアは再び先行し、ベルビーの巧技で26—25と貴重な決勝点を奪い、鈍銀のトロフィを手中に納めた。
わずか五日の間に同じ相手に二度まで敗れたソ連の消沈とは対照的に、ルーマニアは一気にオリンピックへ向けて、たくましい光ののろしをあげることとなった。

「ワールドカップ」熱戦中

〈ワールド・カップ〉といえば通常、世界選手権に伍す大会だが国際ハンドボール界では、スウェーデン協会（SHB）が二年ごとに行なうビッグトーナメントを指す。
一九四五年のIHF新発足にあたってSHBが貢献、その業績を讃えてIHFが、その名の使用を認めているという。
今年の大会は、一月なかばストックホルムで行われ、世界のトップクラスが参加、熱をおびた。
スーパーカップ（前掲）を落したソ連が、どのような試合ぶりをみせるか興味をもたれていたが予選リーグを全勝（三戦）で切り抜けたものの、もう一つ歯切れのわるい内容だった。
特に、若手中心の西ドイツ戦では19点におさえこまれ、ポーランド戦も26—23と迫力を欠いた。
元気なのはデンマーク。八四年の世界選手権（西ドイツ）で四位となり、早々とオリンピック出場を決め、国内のムードも盛り上っている。
東ドイツを23—20、ユーゴに21—22の展開（決勝進出）は、専門家筋にも好評で、このあと夏までさらにダークホースぶりを強めよう。
ソ連ーデンマークの決勝は、ソ連がようやく本来の力を発揮、前半に五点差をつけたが、後半はデンマークの粘りが優って、ファイナルスコアは27—24と、ソ連の辛勝に終った。三位はユーゴ。
ところでファンの気をもませているのが西ドイツの低迷。
スーパーカップでは、自国のジュニアにまで敗れ最下位、この大会も、スウェーデンから一勝（予選）しただけでテールエンドに終っている。
ショーベル監督は、世界ジュニア準優勝（前掲）のメンバーを中心に、近々思い切った新陣容を発表する、と伝えられる。

進境著しいアルジェリア

オリンピックのほかに、国際オリンピック委員会（IOC）がパトロネージ（後援）している競技会として地域競技会（リジョナリゲームス）がある。アジア大会、アフリカ大会、パンアメリカン大会……といったイベントだ。いずれも四年にいちどの開催。
地中海競技大会（メディタレイニアン・ゲームス）もその一つ。
このなかでハンドボールが採用されていないのは、いまやパン・アメリカンだけとなった。
さて、今年（昨秋十月）の第九回地中海競技大会はモロッコのカサブランカで行われ、ハンドボール（男子のみ）には十ケ国が参加した。
ボールゲームで、十ケ国ものエントリーがあったのは、ハンドボール以外では、男子バレーボールだけ、関係者も気をよくしている。
競技は、ユーゴが抜群の存在でスペイン、フランス、イタリアが第三グループとみられたが、アフリカ勢の進境が目立ち、ユーゴースペインが予選リーグで同組となったことも手伝い、決勝はユーゴーアルジェリアの初顔合せ。
ほぼベストメンバーといえるユーゴが、善戦するアルジェリアを17—11で突き放した。三位はスペイン、四位チュニジア。
準優勝のアルジェリアは、すでにロサンゼルス・オリンピックのアフリカ代表権を握っているが、このところ、完全にチュニジアに代ってアフリカナンバーワンとなった感じ。
ヨーロッパへの遠征も積極的で以前から結びつきの強い東ドイツとの交流は、いっそうチーム力を引き上げさせている。
昨年くれには、フランス国際、東ドイツ国際などを転戦しておりロサンゼルスまでには、かなり攻守を磨きあげるだろう。

アメリカ男女、腕をあげる

オリンピックのホスト国アメリカが元気だ。

特筆すべきは、女子が昨秋のスウェーデン四ケ国対抗に優勝したことで、ヨーロッパのトーナメントで、ヨーロッパ以外の国がタイトルを握ったのは、七三年のオランダ女子国際の日本以来、と外電は伝えている（男子はまだない）

アメリカ女子はスウェーデンと17－17、ノルウェート23－21、デンマークと21－20の成績を残したものでかなりの力を感じさせる。

このあと北欧を転戦、アイスランドに一勝二敗、ノルウェーに二敗、スウェーデンに二敗、さらに西ドイツに飛んで二敗という成績だった。

主力には、七六年に日本とモントリオール・オリンピック「三大陸代表決定戦」（ミルウォーキー）を争った選手が、かなり残っているようだが、上背とシュート力があり、四月に来日するようなら興味深い試合を期待できる。

一方、男子もひんぱんにヨーロッパへ姿を現わし、スイスに12－20のほか、ルーマニアへ乗りこんで26－33、24－32のスコアを残している。

ルーマニアはトップスターを常時起用しなかったようだが、少なくとも、以前のアメリカでないことだけは確かだ。

バスケットボールからの転向者が多く、コーチには、新たにスペインからガルシヤ・クエスタ氏を招くなど意欲的。

以前は、ヨーロッパからの移住者中心のスポーツで、全米的な拡がりは、もう一つだったが、オリンピック開催で、特にカリホルニアを中心とした西地域での普及が目につく。

ロスアンゼルスでは、あわよくば八位内入賞をと狙っており、日本をはじめ各国が軽視してかかると足元をすくわれかねない。

中国女子、ロスオリンピックへ

三大陸代表戦流れる

ＩＨＦは、二月十五日、ロサンゼルス・オリンピックの女子「三大陸代表」にアジア大陸代表の中国が推せんされたことを明きらかにした。

これは、二月二十一日から二十七日まで上海市で行われる予定の三大陸代表決定戦に、アフリカ大陸代表のコンゴ、アメリカ大陸代表のカナダが、いずれも棄権を表明したためで、中国に自動的に代表権が与えられた。

中国のオリンピック出場は、男女を通じて史上初めて。

「三大陸代表決定戦」は、モントリオール大会前にはミルウォーキー（アメリカ、日本優勝）、モスクワ大会前にはブラザビル（コンゴ、韓国優勝、のちに不参加）で行われていた。

コンゴ、カナダとも棄権の理由は明きらかにしていない。

ヨーロッパカップ大詰めへ

伝統のヨーロッパカップ三大会は、オリンピックがらみで例年より日程の消化が一ケ月も早く、三月中旬で各大会とも準決勝を完了、四月一、八日の決勝進出チームが決まっている。

ヨーロッパ各国は、このあとロサンゼルスへ向けて、じっくり強化、調整するわけだが、日本協会などは、こうした事情をまったく知らず、やみくもに「ジャパンカップ」の日程を設定するから、参加チームがなかなか集まらぬことになる。

それはさておき、今年の三大会は、ソ連、東ドイツ勢が不参加ながら、なかなか波乱に富み、好内容の激戦がつづいた。

ファンを沸かせたのは、ヨーロッパカップ準決勝における西ドイツ代表の明暗。

男子で連勝を狙うＶｆＬ・グンメルスバッハが、宿敵デュクラ・プラハ（チェコ）に敗れたのに対し、女子はバイエル・レーベルクーゼンが、代表チームの選手を並べた強豪バサス・ブタペスト（ハンガリー）を退け、史上初の決勝進出を遂げたのである。

ヨーロッパ女子界といえば東欧勢全盛、レーベルクーゼンの健闘は「史上に残るもの」とまでいわれ、ラドニッキ・ベルグラード（ユーゴ）と争う決勝戦の前景気はかつてないほど、盛り上っている。

グンメルバッハの敗退は、エース・ヴンダーリッヒの移籍がなんといっても痛い。

そのヴンダーリッヒを迎えたＦＣ・バルセロナ（スペイン）は、カップ・オブ・カップスを順調に勝ち進んで、スロガ・ドボイ（ユーゴ）と決勝戦だ。

このほか、ＩＨＦカップ男子でグラドサクセ・ソボリ（デンマーク）、同女子でＲＭ・ビルセア（ルーマニア）と伏兵の決勝進出が話題を呼んでいる。

各地の記録

●埼玉県高校新人大会

（11月19～27日）

〈男子〉（予選リーグ省略）

▽1回戦
大宮北 30－17 草加東
埼玉栄 26－13 朝霞西

▽2回戦
川口北 36－11 大宮北
浦和市立 31－18 城北埼玉
川口東 25－15 草加
浦和学院 42－13 川越工
川口北 29－6 小松原
浦和南 31－15 庄和
浦和西 29－13 春日部共栄
浦和実 23－12 埼玉栄

▽3回戦
川口工 34－19 浦和市立
浦和学院 31－16 川口東
川口北 34－11 浦和南
浦和実 21－10 浦和西

▽5～8位決定戦
浦和西 18－15 浦和南
川口東 22－18 浦和市立

▽7、8位決定戦
浦和南 33－11 浦和市立

▽5、6位決定戦
浦和西 24－13 川口東

▽準決勝
川口工 23（10－12、13－7）19 浦和学院
浦和実 22（13－8、9－6）14 川口北

▽3位決定戦
川口北 16（6－6、10－7）13 浦和学院

▽決勝
浦和実 24（15－7、9－8）15 川口工

〈女子〉（予選リーグ省略）

▽1回戦
埼玉一 14－12 浦和市立
深谷一 15－15 草加東
3 PTC 2
八潮 21－11 浦和西
筑波坂戸 14－8 熊谷女
浦和商 18－12 狭山
上尾南 13－8 羽生一

▽2回戦
庄和 10－7 埼玉一
川口女 26－7 深谷一
浦和実 24－6 志木
八潮 29－6 川口東
浦和南 15－4 筑波坂戸
和光 17－6 越谷南
行田女 19－1 上尾南
川口北 27－5 浦和商

▽3回戦
川口女 23－6 庄和
浦和実 18－13 八潮
和光 12－11 浦和南
川口北 21－7 行田女

▽5～8位決定戦
八潮 18－11 庄和
行田女 16－5 浦和南

▽7、8位決定戦
浦和南 15－7 庄和

▽5、6位決定戦
行田女 14－11 八潮

▽準決勝
川口女 10（6－4、4－3）7 浦和実
川口北 13（8－4、5－4）8 和光

▽3位決定戦
浦和実 11（5－3、6－4）7 和光

▽決勝
川口北 20（9－2、11－7）9 川口女

●愛媛県高校1年生大会

（12月23、24日）

〈男子〉

▽1回戦
松山北 15－12 今治南
宇和島南 19－12 新田
新居浜工 13－7 松山西
伊予 24－7 新居浜商

▽準決勝
松山北 19（10－5、9－5）10 宇和島南
新居浜工 17（11－9、6－3）12 伊予

▽決勝
新居浜工 16（6－5、10－8）13 松山北

〈女子〉

▽1回戦
今治北 7－5 松山北
大島 4－2 松山西
今治南 13－3 三崎
新居浜商 18－5 松山商

▽準決勝
今治北 4（2－1、2－1）2 大島
今治南 15（3－1、1－1、7－5、4－6）13 新居浜商

▽決勝
今治南 7（3－2、4－2）4 今治北

●全国高校選抜 青森県2次予選

（1月5、6日）

〈男子〉

▼リーグ戦
野辺地 17－16 青森商
七戸 22－15 青森東
青森商 23－13 七戸
野辺地 25－17 青森東
青森商 38－21 青森東
野辺地 15－15 七戸

［順位］①野辺地②青森商③七戸④青森東

〈女子〉

▼リーグ戦
青森西 18－11 野辺地
青森西 12－6 七戸
野辺地 15－8 七戸

［順位］①青森西②野辺地③七戸

●三重県高校新人大会

（1月8、15、16日）

〈男子〉

▽1回戦

桑名北 25－9 日生第二

四日市 23－6 高田

▽2回戦

四日市工 31－12 桑名北

海星 30－13 津

尾鷲 26－2 津工

四日市西 17－11 四日市南

桑名西 27－9 津西

桑名工 16－11 四日市中央

四日市 26－20 桑名

亀山 12－0 津東

▽3回戦

四日市工 34－19 海星

尾鷲 15－11 四日市西

四日市 20－14 桑名工

桑名西 15－14 亀山

▽準決勝

四日市工 15（7－2、8－8）10 尾鷲

四日市 17（9－3、8－3）6 桑名西

▽決勝

四日市工 32（17－5、15－6）11 四日市

〈女子〉

▽1回戦

四日市 13－9 亀山

四日市商 8－5 尾鷲

四日市西 11－9 津東

▽2回戦

暁 22－3 四日市

四日市商 8－3 桑名

上野 12－5 四日市西

四日市南 12－0 津

▽準決勝

暁 24（12－1、12－0）1 四日市南

上野 10（5－1、5－2）3 四日市商

▽決勝

暁 13（8－1、5－1）2 上野

●全国高校選抜愛媛県予選

（1月、15、16日）

〈男子〉

▽1回戦

新居浜工 18－14 今治西

新田 15－14 宇和島南

▽準決勝

新居浜工 15（5－7、5－3、1－0、0－1、1－1、3－1）13 松山西

松山北 25（9－9、9－9、3－0、4－1）19 新田

▽決勝

松山北 13（5－4、8－4）8 新居浜工

〈女子〉

▽1回戦

新居浜商 8－7 松山北

大島 24－1 伊予農

▽準決勝

今治南 10（4－2、6－4）6 新居浜商

大島 7（4－2、3－4）6 今治北

▽決勝

今治南 8（5－1、3－2）3 大島

●東海室内選手権三重県予選

（1月15、22日）

〈男子〉

▽1回戦

鵜ノ森ク 38－13 四日市中央ク

▽2回戦

本田技研 33－4 鵜ノ森ク

セブンスターズ 31－23 尾鷲ク

三重教員 38－16 半田ク

本田爽風会 35－6 鈴鹿工専

▽準決勝

鈴鹿本田技研 33（14－3、19－2）5 セブンスターズ

本田爽風会 30（15－7、15－10）17 三重教員

▽決勝

鈴鹿本田技研 29（12－5、17－2）7 本田爽風会

●第12回鹿児島県中学新人大会

（1月17日）

〈男子〉

▽決勝トーナメント1回戦

国分 10－9 付属

谷山A 24－21 東谷山A

▽決勝

谷山A 21（7－2、14－6）8 国分

〈女子〉

▽リンク戦

付属 4－4 谷山

東谷山 12－3 大浦

付属 9－7 東谷山

谷山 7－6 大浦

［順位］①付属②東谷山③谷山④大浦

●第10回茨城県一般室内選手権

（1月22、29日）

〈男子〉

▽1回戦

自衛隊勝田 19－16 鉾田ク

茨城大 17－10 筑波会

▽2回戦

筑波振球会 15－11 筑波大

茨苑ク 26－10 筑波ラバーズ

自衛隊勝田 18－13 日本原研

茨城大 18－10 桜水ク

▽準決勝

茨苑ク 23（9－6、14－9）15 振球会

茨城大 31（15－4、16－11）15 自衛隊勝田

▽決勝

茨苑ク 32（18－8、14－9）17 茨城大

■4月～6月のハンドボールイベント■

★の試合は賛助会員は無料で見られます。

ジャパンカップ'84および国際親善試合（かっこ内）

	男	子	女　　子
4月21日(土)	大阪市中央体育館	★17：00(湧永製薬)＊スウェーデン	
4月22日(日)	愛知県体育館 生駒市総合公園体育館	★17：20(大同特殊鋼)＊ユーゴスラビア ★15：00(わかくさクラブ)＊スウェーデン	同左　★15：50(ブラザー工業)＊USA
4月23日(月)			
4月24日(火)	横浜文化体育館	★19：00全日本＊ユーゴスラビア	
4月25日(水)	呉　市	★18：30(日新製鋼)＊スウェーデン	★18：00(日立栃木)＊USA
4月26日(木)			
4月27日(金)	東京体育館	★19：00ユーゴスラビア＊スウェーデン	同左　★17：30全日本＊USA
4月28日(土)	東京体育館	★18：30全日本＊スウェーデン	同左　★17：00(大崎電気)＊USA
4月29日(日)			
4月30日(休)	浦和市民体育館	★14：00(日本学生選抜)＊ユーゴスラビア	★14：00(日本ビクター)＊USA

国際スポーツフェア'84春ハンドボール関連行事(代々木国立競技場)

5月2日(水)	18：00～19：10	男子：日本ナショナルチーム＊ユーゴ男子ナショナルチーム
5月3日(祝)	11：00～12：00	日本・ユーゴナショナル選手によるハンドボール教室 出場希望者によるペナルティスローゲーム（賞品多数）
	12：00～14：30	関東チビッコハンドボール大会
	15：00～16：10	女子：関東学生選抜チーム＊USAナショナルチーム
	16：20～16：50	「夢のハンドボール」(トランポリン使用によるスカイプレイ)
	17：00～18：10	男子：日本ナショナルチーム＊ユーゴナショナルチーム

5月4日(金)～6日(日)	愛知県体育館	★第25回全日本実業団ハンドボール選手権大会（女子・参加チーム）10チーム
5月9日(水)～11日(金)	大阪市中央体育館	★第25回全日本実業団ハンドボール選手権大会（男子・参加チーム）10チーム
6月9日(土)～7月1日(日)	各　地	★第9回日本ハンドボールリーグ（前期）

ロスへみんなで応援に行こう！

ロスオリンピックツアー(各コース35名)の追加募集をしています。Aコース(41万円)5名、Bコース(40万円)12名、Cコース(53万円)9名。昼夕食および入場券の料金は別。入場券の費用は、Aコース(3回分)約14,000円、Bコース(4回分)約21,000円、Cコース(7回分)約35,000円ですが、ほかに他の時間帯（日中、夜間）又は女子の試合も若干組合せます。希望があれば帰路ハワイ旅行も計画します。

(申込方法等は次ページをご覧下さい。)

【Aコース】		【Bコース】	
7月30日	A・Cコース　成田空港出発17：20(JL62)	8月6日	日本＊デンマーク他2試合(Bコース成田空港出発17：20JL62)
7月31日	日本＊東ドイツ他2試合	8月7日	(女子)
8月1日	(女子)	8月8日	日本＊USA他2試合（Bコースディズニーランド観光）
8月2日	日本＊ユーゴ他2試合（A・Cコースディズニーランド観光）	8月9日	(女子)
8月3日	(女子)	8月10日	5位～12位決定戦
8月4日	日本＊ハンガリー他2試合	8月11日	1位～4位決定戦
8月5日	(女子)	8月12日	B・Cコース　ロサンゼルス出発13：00(JL61)
8月6日	ロサンゼルス出発13：00(JL61)	8月13日	B・Cコース　成田空港着16：15
8月7日	Aコース成田空港着16：15		

【Cコース】

日本協会の電話番号が4月2日から変更になりました。新電話番号03-481-2361・2362

賛助会はみんなの会だ

☆　何をするか？

オリンピックはどうなっている？
今年はどんな外国チームが来る？
日本リーグで強いのはどこか？
大学では？　高校では？
ハンドボールのビデオが欲しい。
そう。学校卒業後ハードボールから遠ざかってしまったがハンドボール界の様子を知りたいという人、もっとハンドボールのテクニックを研究したいという人、……。みんながハンドボールを見たり、やったりしてenjoyできればいいのです。

☆　会員になったら？

次のような特典があります。
①日本ハンドボール協会編月刊「ハンドボール」を毎月送ります。
②ハンドボールのイベントなどの情報をお届けします。
③日本ハンドボール協会主催の各種大会，日本リーグがただで見られます。
④ハンドボールビデオ，スコアブック，ルールブック，教程書等を特別価格でお頒けします。

☆　会費は？

①個人会員　１口　５千円　１口以上
４口（２万円）以上納付された方を特別個人会員として機関誌に公示し，希望により口数に応じた特典を差し上げます。
③法人会員　１口５万円　１口以上
６口（30万円）以上納付された方を特別法人会員として機関誌に公表し，希望により口数に応じた特典を差し上げます。
年会費は、財団法人日本ハンドボール協会の賛助会特別会計で処理され，賛助会の経費に充てた余剰は、強化及び普及事業に充当されます。

☆　入会の手続きは？

特別の郵便振替用紙（兼申込書）を本紙に綴じ込んであります。
ＯＢ会、会社や地方協会など団体で個人会員をまとめて納付される場合は、手数料として会費の10％を控除していただいて結構です。

特別賛助会員御芳名

（受付順太字は前号以降。敬称略。）
※特別法人会員　㈱デサント　アシックス㈱　新日本製鉄㈱　㈱三陽商会　中村荷役運輸㈱　㈱三景　ジャスコ㈱　大同特殊鋼㈱　ブラザー工業㈱　日本ビクター㈱　大田印刷㈱　大崎電気工業㈱　日新製鋼㈱　㈱日立製作所栃木工場

※特別個人会員　滝沢　武（滝沢ハム・栃木市）　斎藤英四郎（日本協会・東京都）　荒川清美(同)　武田喜三(同)　大野金一(同)　竹内史衛（淡青社公認会計士事務所・東京都）　伊崎克己（群馬県）　黒田節郎（日本協会・日野市）　**平岡秀雄**（日本協会・東京都）　**岡村千春**（所沢市）　**渡辺慶寿**（日本協会・宇都宮市）　**阿部二郎**（同・茨城県）　**滝口三郎**（同・東京都）　**北川勇喜**（同・横浜市）　**大西武三**（同・茨城県）　**中沢重夫**（同・東京都）　**金原至**（同・氷見市）　**林達夫**（同・名古屋市）　**正畠明雄**（広島市）　**川上整司**（日本協会・狭山市）　**村田弘**（同・堺市）　**岡前義春**（同・府中市）　**富永劭**（同・水戸市）　**安藤純光**（同・日野市）　**山本佐知子**（ノタリーノ・東京都）

３月７日現在　法人会員14社
個人会員73名

大変有難うございました。（横浜市の佐々木勝様、鈴鹿市の矢田雅人様、正確な住所をお知らせ下さい。）

ロスオリンピックツアー募集

企　　画　ISSA
〒104　東京都中央区銀座3-11-14
ダバクリエートビル２階
電話（03）542－0879
旅行主催　㈱東京航空サービス
（一般旅行業第93号）
旅行取扱い　㈱トラベルランドコーポレーション

参加申込方法

◙昭和59年３月31日までに左記ISSA内ロスアンジェルスオリンピック・ツアーまで申込金20万円を下記にお払込みのうえお申込み下さい。
振込銀行：第一勧業銀行西銀座支店
口　　座：普通口座１１２７０３４
口 座 名：ロスアンジェルスオリンピック観戦の旅